

令和7年度 甲賀市教育研究会 視聴覚部会 研究報告

- (1) 群市名 甲賀市
- (2) 研究テーマ 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ
- (3) 研究組織
- | | | | |
|------|-------------|----|----|
| 支部長 | 甲賀市立甲南第二小学校 | 西口 | 純 |
| 事務局 | 甲賀市立甲南中部小学校 | 清水 | 未来 |
| 運営委員 | 甲賀市立甲南中部小学校 | 清水 | 未来 |
| 研究委員 | 甲賀市立貴生川小学校 | 磯田 | 弘暉 |

(4) 年間研究報告

時 期	事 業 名	内 容 (講師職・氏名)
6月10日	県視聴覚部会 支部長会	・昨年度の事業報告、会計報告等 ・今年度の事業計画、組織確認等 ・今後の近畿大会の担当市町の輪番
6月下旬	市視聴覚教育部会 事務局会議	・本年度組織確立 ・本年度事業計画 ・本年度の研究について ・諸連絡
7月	アナウンスビデオ教室への参加	
7月22日	県視聴覚部会 ・情報統計部会 支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会	・研修① はじめての Canva 講師 彦根市立旭森小学校 教諭 笹原弘樹 ・研修② 動画を活用した授業
11月12日	近畿放送教育研究会 兼近畿視聴 覚教育研究大会	
11月28日	市情報統計 ・視聴覚部会 合同研修会	「情報リテラシーを身につけよう」 講師 滋賀県総合企画統計課 普及係 森 幸一
2月	県支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会 滋賀県放送教育研究大会	

(5) 取り組み（実践事例）

本校5年生の国語科の学習では2つの単元に置いて報告文や意見文を、ICT機器を活用して作成した。児童には一人一台タブレットがあり、その中にあるTeamsやオクリンクなどのアプリを活用した。ICT機器を用いることで、報告文や意見文に関係する写真や図、表などを自分で調べやすくなり、本文に取り込みやすくなる。さらには、文章と写真などの関係をもとに、配置を児童自身が工夫することができる。そうすることで読み手が理解しやすく、より説得力のある文章になる。以下、国語科の学習でICT機器を活用した事例を紹介する。

① 「みんなが使いやすいデザイン」

「みんなが使いやすいデザイン」の学習では、TeamsとWordを用いて報告文を作成した。身近にあるユニバーサルデザインを探したり調べたりして、それらをWordにまとめた。

児童は身の回りのユニバーサルデザインを撮影したり、インターネットで調べたりした写真を本文に取り込み、読み手が分かりやすいようにまとめることができた。また文章作成時に、誤字や脱字などが見つかった際には打ち換えるだけで簡単に修正ができ、文章の作成がよりスムーズに進み、児童も単元の終わりまで集中を切らさずに取り組むことができたように思う。

児童は毎授業の終わりに、作成途中の文章をTeamsに提出した。なぜなら教師が文章を確認し、フィードバックをTeamsを通して児童に返すことができるからである。そうすることで、次の授業で児童はフィードバックを見て、文章を修正や工夫をし、より読み手に伝わり、説得力のある文章作成につながったと考える。

身の回りにおけるユニバーサルデザイン 5年2組

1. 調べたきっかけ
私の学校には、障害を持つ生徒がいます。そういった障害を持った人は、障害がない人のように思うように動けないと思います。だけど障害を持っている人でも過ごしやすい工夫があるとありました。なので詳しく調べることになりました。

2. 調べ方
調べる方法は、二つに分けました。1つ目は、貴生川小学校には、障害を持つ人のためにどんな工夫をしているのかを学校を歩いて探すこと。2つ目は、ネットで、障害者のためにどんな工夫をしているかを検索すること。

3. 調べて分かったこと
(1) 貴生川小学校にあるユニバーサルデザインの工夫
貴生川小学校では、障害を持っている人でも過ごしやすいようにいろいろ工夫がしてあった。手の力が弱い人でも蛇口から水が出しやすいようにセンサーに手をかざすと水が自動で出る蛇口がある。他にも車椅子に乗っている人でも手がとどきやすいようにエレベーターのボタンの位置を低くするという工夫があった。



(2) ユニバーサルデザインは家にもある
ネットで調べると、このようなユニバーサルデザインは家にもあることが分かりました。それは、シャンプーです。なぜシャンプーがユニバーサルデザインなのかというと目が見えない人でもシャンプーとリンスの見分けがつけるからです。「シャンプーの容器には、横にでこぼことした線が何本も入っています。だけどリンスにはそれがありません。」これが家にあるユニバーサルデザインです。

(3) ユニバーサルデザインはあらゆる場所にある
ユニバーサルデザインは学校や家だけでなくあらゆる場所にあります。例えば、歩道には、黄色い点字ブロックがあります。点字ブロックは、目が見えない人が使います。点字ブロックは、真っ直ぐに線が引いてあるほうが進む、たくさん点があるほうがストップです。この点字ブロックは目が見えない人でも安全に歩行できるように作られました。

4. まとめ
私の学校、家そして町には、色々な障害を持つ人がいます。そのような人だけが不便暮らしをするのではなく誰もが安全に暮らせるようにユニバーサルデザインがあります。このようなユニバーサルデザインはこれからも障害を持つ人が安全に暮らせるように工夫をされていくと私は思います。

〈参考〉 インターネット ユニバーサルデザインってなんだろう？身の回りから探してみよう

資料1 「みんなが使いやすいデザイン」の報告文

② 「自然環境を守るために」

「自然環境を守るために」の学習では、日本の自然環境が抱えている問題や、それに対する自分の考えをまとめて、意見文をオクリンクを用いて作成した。オクリンクでも写真などを本文に取り込んだり、フィードバックを一人一人に送ったりすることもできる。また文章をいくつかに分けて書くこともできる。

今回の学習では、文章が「始め」「中」「終わり」に分かれており、それぞれの文章を作成した。作成した「始め」「中」「終わり」の文章を一つのカードにまとめて作成した。そうすることで、書き直すために最初から消しゴムで文章を消して書き直す作業がなくなり、容易に修正や改善ができる。児童は途中で妥協することなく学習課題の解決に向けて取り組むことができる。さらに、児童それぞれのペースで文章を作成できたり、お互いに見合えたりすることもよい。また、オクリンクを使うことで、友だちの文章を読んで自分の文章に生かすこともできる。

二酸化炭素排出量を減らそう

年々地球温暖化は進んでいます。地球温暖化を防ぐことは、二酸化炭素排出量を減らす事に繋がります。そのため私は二酸化炭素の原因である石油などを減らす必要があると考えています。

資料1は世界の二酸化炭素排出量の移りかわりです。1950年から2022年の間で約185倍二酸化炭素排出量が増えています。

資料2は乗り物に使われるエネルギー資源の割合を表したグラフです。石油は全体の90パーセントをしめています。この二つの資料から私は、これからの二酸化炭素排出量は増えていき結果500億トンを超えていくと思います。そのためこれからは電気自動車や水素で動く自動車に乗る必要があると予想します。

以上の事からこれは二酸化炭素排出量に繋がる行動は出来るだけ石油などを使わなくても出来るものに切り替え二酸化炭素排出量を減らしていきましょう。

参考
国際エネルギー機関 (IEA) World Energy Outlook (2023)
Our World in Data (Our World in Data - Our World in Data)

資料2 「自然環境を守るために」の意見文

(6) 成果と今後の課題

【成果】

- 文章と写真などとの関係を意識して読み手が理解しやすくより説得力のある文章を作成することができる。
- 文章作成中に、修正が必要となっても打ち換えるだけでよいので、児童の手間が省ける。
- 児童それぞれの進度で学習を進めることができる。

【課題】

- 児童がそれぞれインターネットで資料を探すので、信憑性の低い資料を選ぶ場合がある。
- インターネットで調べたことを自分の文章にそのまま写してしまう児童がいる。